

はじめに

本書『いまこそ知りたい！ 沖縄が歩んだ道』第2巻では、沖縄に残る戦争遺跡や米軍基地について紹介します。

戦争遺跡とは、戦争中の陣地や司令部、防空壕の跡、被害を受けた公共施設、慰霊碑、祈念碑などをさします。アジア太平洋戦争において、日本軍の要塞となり、住民をまきこんで地上戦がくり広げられた沖縄には、こうした戦争遺跡が数多く残っています。

戦争を体験していないみなさんが、戦争遺跡について知ることには、どんな意味があるのでしょうか。それは、将来、二度と戦争を起こさず、世界中の人たちが平和に、平等に生きていくということにつながります。戦争遺跡について調べながら、沖縄で何が起こったのか、そのとき沖縄の人たちがどんな気持ちだったのか、想像してみてください。平和や命の尊さについて考えるきっかけになるでしょう。この本では、平和学習に役立つ資料館や祈念館といった施設も紹介しているので、活用してみてください。

また、この本では、沖縄の米軍基地についても説明しています。沖縄には、全国にある米軍基地の約7割もが集中していますが、なぜ米軍基地がたくさんあるのか、沖縄の人たちはどう思っているのか、正しく理解している人は多くありません。けれど、米軍基地の問題は、みなさんとともに、これから解決していかなくてはならない問題です。戦争は終わっても、この問題は終わっていないのです。

戦争遺跡についても、米軍基地についても、まずは正しく知ることが大切です。そして、知識を深めたあとに、自分たちには何ができるのか、ぜひ考えてみてください。

あらしるとしあき おきなわれき しきういけんきょうかい こもん
新城俊昭 (沖縄歴史教育研究会 顧問)

いまこそ知りたい！ 沖縄が歩んだ道

2

沖縄に残る戦争遺跡と米軍基地

もくじ

- 2 沖縄の戦争遺跡と施設・米軍基地
- 4 はじめに
- 6 沖縄諸島の戦争遺跡
 - 7 **コラム** 首里城公園地下にある第32軍司令部壕
 - 8 旧海軍司令部壕
 - 10 沖縄陸軍病院南風原壕群20号
 - 11 南風原文化センター
 - 12 系数アブチラガマ
 - 14 チビチリガマ
 - 15 **コラム** ガマと人工壕
 - 15 シムクガマ
 - 16 シュガーローフ
 - 17 榮橋／旧天願橋
 - 18 渡嘉敷島・にし山の陣地壕跡群／伊江島・山グシの砲台跡
 - 19 久米島・喜久村家の防空壕跡／粟国島・真鼻毛の偽砲台跡
- 20 先島諸島の戦争遺跡
 - 20 **コラム** もうひとつの沖縄戦「戦争マラリア」
 - 21 宮古島・陸軍宮古島中飛行場戦闘指揮所跡
 - 22 宮古島・野原岳の電波探知機壕跡／宮古島・ピンフ嶺の砲台跡
 - 23 石垣島・大浜のえん体壕跡
 - 24 石垣島・於茂登山砲台・弾薬庫跡／内離島・船浮臨時要塞司令部跡
- 25 大東諸島の戦争遺跡
 - 25 南大東島・万座毛の銃眼跡
- 26 平和学習に役立つ施設
 - 26 **コラム** 平和学習の進め方
 - 27 沖縄県営平和祈念公園
(平和の火／平和の礎／沖縄平和祈念堂／摩文仁の丘／沖縄県平和祈念資料館)
 - 30 ひめゆり平和祈念資料館
 - 31 対馬丸記念館
 - 32 八重山平和祈念館
 - 33 佐喜真美術館
- 34 沖縄の米軍基地
- 39 さくいん

糸数アブチラガマ



およそ200人の住民と 600人の負傷兵が身をひそめた

糸数アブチラガマは、沖縄島南部の糸数集落にあるガマ(⇒15ページ)です。「アブ」は深い縦の洞穴、「チラ」は崖を意味しています。このガマは、もともとは糸数集落の避難壕でしたが、その後、日本軍の陣地や倉庫として使われるようになりました。さらに、戦況が悪化すると南風原の陸軍病院(⇒10ページ)の分室となり、600人以上の負傷兵が運ばれてきました。

1945年5月25日、病院に南部への撤退命令が下されますが、歩くことのできない負傷兵や住民は壕に取り残されます。6月に入ると、壕の中にもアメリカ軍の攻撃がおよび、死傷者が出ました。生き残った人たちは、日本が無条件降伏をした1週間後の8月22日、アメリカ軍の投降よびかけによって、ようやく壕の外に出ることができました。

現在、出口として使われている壕口のあたり。中に入ると、全長270mの洞窟がついています。

info

糸数アブチラガマ
https://abuchiragama.com

住所
沖縄県南城市玉城糸数667-1

見学
9:00 ~ 17:00 年末年始は休み

料金 ()内は20名以上の団体料金
 高校生以上 300円 (250円)
 小~中学生 150円 (150円)
 懐中電灯レンタル 100円

※予約が必要です。
 ※懐中電灯、ガイドなしでは壕の中に入ることができません。
 ※入壕料のほかに、ガイド料金がかかります。
 ガイド料金は、入壕する人数によって異なります。

(12~13ページ写真提供:糸数アブチラガマ案内センター)

壕の中

高さ1~10m、幅1~20mと、変化に富む壕の中に、病棟や手術室、食料や衣類の倉庫などがありました。くぼみを利用し、また広い場所には小屋も7、8棟建てられていたといえます。住民地域は、攻撃を受けやすくもっとも危険な出入口付近でした。



慰霊碑



カマド

壕内には物を煮炊きするためのカマドも造られました。しかし、地上にけむりが出るとアメリカ軍に見つかってしまうため、食事もままならない状況でした。



入口

爆風よけの石積み

壕の中には、地面から天井まで石を積み上げたかべが数か所残されています。これは、アメリカ軍の攻撃を防ぎ、爆風をよけるために造られたものです。1945年6月ごろから、地上はアメリカ軍が支配し、空気孔から黄リン弾(爆弾の一種)が投げこまれたり、壕口からガソリンが入ったドラム缶が投げこまれたりしたこともありました。



平和の火

平和の火は、海岸線の波打ち際を見わたせる平和の広場に設置されています。この火は、沖縄戦でアメリカ軍が最初に上陸した座間味村阿嘉島で採取した火と、被爆地である広島市の「平和の灯」、長崎市の「誓いの火」を合わせたもので、1995年6月23日の「慰霊の日」からともしつづられています。



平和の礎

平和の礎は、沖縄戦などで亡くなった人びとの氏名を、国籍や軍人・民間人を区別せず刻んだ碑です。「いしづえ」を沖縄の方言で「いしじ」と発音することから、この名がつけられました。亡くなった人びとのたましいをなぐさめること、戦争の悲惨さを風化させずに伝えつづけて、世界の平和を祈ることを目的に、沖縄戦終結50周年を記念して造られました。全体が波の形をしており、これは「鉄の暴風」の波が平和の波へと変わることを象徴しています。



(写真提供：公益財団法人沖縄協会)

沖縄平和祈念堂

沖縄平和祈念堂は、沖縄戦の悲惨な戦いを二度とくり返さないよう、世界平和を祈念するために造られました。堂内には、沖縄出身の芸術家によって制作された、高さ12mの沖縄平和祈念像が安置されています。また、平和への願いをテーマにした絵画や銅像を展示する美術館もあります。

info

沖縄平和祈念堂

<http://www.okinawakyoukai.jp/publics/index/17>

住所

沖縄県糸満市字摩文仁448-2

開館

9:00 ~ 17:00 年中無休

料金

()内は20名以上の団体料金

小学生以下 無料

中学生・高校生 350円 (250円)

大人 450円 (350円)

※6月23日(沖縄慰霊の日)、8月15日(終戦記念日)は参観料無料

摩文仁の丘

陸軍第32軍(南西諸島守備軍)が最期をむかえた摩文仁の丘は、沖縄戦で亡くなった住民や軍人の墓苑として整備されています。国立沖縄戦没者墓苑には18万人もの遺骨が納められ、慰霊の日には多くの遺族がおとずれて冥福を祈っています。また、墓苑までの参道には、沖縄県以外の46都道府県や、さまざまな団体が建立した慰霊塔や慰霊碑が点在しています。



沖縄県平和祈念資料館

平和祈念資料館は、沖縄戦を学び研究する施設として設立されました。沖縄戦にいたるまでの歴史や戦いの様子、戦争体験者の証言などが展示されています。常設展示室では、「沖縄戦への道」「鉄の暴風」「地獄の戦場」「沖縄戦の証言」「太平洋の要石」という5つのテーマで、沖縄戦や戦後の沖縄の様子を資料や映像、模型などで紹介しています。

(写真提供：沖縄県平和祈念資料館)



沖縄戦時の壕の中の様子を再現し、展示しています。



沖縄戦を体験した人たちの証言は、証言集と映像で見ることができます。

info

沖縄県平和祈念資料館

<http://peace-museum.okinawa.jp>

住所

沖縄県糸満市字摩文仁614-1

開館

9:00 ~ 17:00

(常設展示室への入室は16:30まで)

年末年始は休館

料金

()内は20名以上の団体料金

小~大学生 150円 (100円)

大人 300円 (240円)

※入館は無料。常設展示室を観覧する場合の料金。